

特別講演 1

「熱中症診療ガイドライン 2024

熱中症重症度分類Ⅳ度と qⅣ度の提唱」

帝京大学医学部附属病院 高度救命救急センター 副センター長
日本救急医学会 熱中症および低体温症に関する委員会 委員長
神田 潤 先生

日本救急医学会の熱中症重症度分類 2015 の重症度分類の有効性を直接検討したエビデンスはない。熱中症の死亡者数は毎年 1,000 人を超えており、重症例への対応が喫緊の課題である。こうした状況に鑑みて、熱中症診療ガイドライン 2024 の発行にあたりこれまでⅢ度 (2015) としてきた重症群の中に、さらに注意を要する最重症群があり、この最重症群を「Ⅳ度」として同定し、Active Cooling を含めた集学的治療を早急に開始することを提唱した。併せて、深部体温の測定なしでも重症を予測する基準として「qⅣ度」を提唱して、深部体温測定を推奨することとした。Ⅳ度と qⅣ度の定義とガイドライン 2024 での診療アルゴリズムは以下の通りである。

Ⅳ度	深部体温 40.0℃以上かつ Glasgow Coma Scale の合計 8 点以下
Ⅲ度	Ⅳ度に該当しない従来 (ガイドライン 2015) のⅢ度
qⅣ度	表面体温 40.0℃以上 + Glasgow Coma Scale の合計 9 点以上 (もしくは Japan Coma Scale 100 以上)